

令和元(2019)年度

日本特別活動学会 第6回 実践事例募集事業

推 奨 実 践 事 例

事例番号 6-4

生徒一人一人が参画し、学校の一体感を高める生徒会活動・学校行事の実践

(宮城県)宮城県小牛田農林高等学校 鈴木 崇之(スズキ タカキ)

実践テーマ	生徒一人一人が参画し、学校の一体感を高める生徒会活動・学校行事の実践
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 (児童会・生徒会活動) クラブ活動 (学校行事) その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>〈実践事例の背景・ねらい〉 勤務校は今年度で創立131年を迎える県内でも有数の伝統校である。農業技術科と総合学科の二つの学科があり、農業クラブでは多くの種目で全国大会へ出場するなど、農業高校独特の活動が盛んである。また部活動も活発であり、剣道部や相撲部などは全国大会でも活躍している。学校における個々の活動は充実しているが、全校生徒が関わる生徒会活動や学校行事については、生徒の参画意識が高いとは言えず、一体感に欠ける。選挙によって選ばれた生徒会執行部(以下執行部)はやる気に満ちて生徒会活動・体育祭や文化祭などの学校行事を主導しているが、その他の生徒とは意識の差がある。そこで、全校生徒が参画意識をもち、学校の一体感を高められる生徒会活動・学校行事を目指した。</p> <p>〈方法〉 筆者が勤務校に赴任して、生徒会顧問を担当した平成29年度から令和元年度までの3年間に、以下の4つのことを実践として行った。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 活発な意見交換が行われる生徒総会(2) 委員会や部活動が運営に関わる体育祭(3) 全校生徒が主体的に参加し一体感をもつ文化祭(4) 生徒会便りやホームページなどによる情報発信
実践の時期	平成29年4月より

【実践事例】

（１）活発な意見交換が行われる生徒総会

〈概要と問題点〉生徒総会では、生徒会予算、各委員会の活動報告、学校への要望事項の検討、といった議題を扱っていた。例年質疑応答などの挙手はほとんどなく、生徒たちは受け身で参加しており、学校生活を自ら改善していこうという姿勢が弱かった。

〈具体的な取り組み〉

○生徒たちの関心が高い議題の設定

体育祭や文化祭など生徒の関心の高い事柄について、執行部から改善の原案を出させ、それについて周囲の生徒同士で話し合う時間を設け、全体で共有した。特に次の二つは活発に意見交換が行われた。

・体育祭におけるクラスＴシャツの着用

本校の体育祭は学年対抗で行われている。各クラスで色の異なるクラスＴシャツを着用すると競技の際に学年を判別することができないため、応援時のみ着用が認められている。そこで執行部では、学年ごとにＴシャツの下地の色を統一し、バックプリントなど一部分はクラスオリジナルで作成し、競技中にも着用できるようにするという案を提示した。これに対して、「競技中もクラスＴシャツを着られるのはいいと思う」、「下地からクラスで考え、クラスのカラーを出したい」といったように、賛否両論の意見が活発に交わされた。これらの意見を参考に、さらに執行部で案を練ることになった。

・文化祭における後夜祭の実施

本校の文化祭は二日間かけて行う。一日目は校内発表、二日目は学習活動の展示や模擬店、農作物の販売などを行う一般公開である。特に二日目に関しては、農業技術科の生徒は農作物の販売に、模擬店を行う生徒はその活動に掛り切りになっていた。例年文化祭の反省として「一般公開の時にも生徒全員で文化祭を楽しむ機会がほしい」という声があった。そこで執行部に改善策を考えさせ、二日目の一般公開終了後に後夜祭として全校生徒が参加する行事を行うことを提案させた。後夜祭の内容や日程などについて多くの意見が出され、後夜祭を行うこと自体は満場一致で議決された。

（２）委員会や部活動が運営に関わる体育祭

〈概要と問題点〉本校の体育祭は二日間にわかれており、一日目は運動会、二日目は球技大会を行っている。執行部が計画をたて、前日の準備、当日の進行や片付けまでを主導していた。全校生徒が参加する行事であるにも関わらず、実際は一部の生徒で運営されており、多くの生徒には「自分たちで行事をつくる」という意識が薄かった。

〈具体的な取り組み〉

○各種委員会の参加度を高める

体育祭は例年７月に行っており、執行部で熱中症対策ができないかという声があがった。そこで、ペットボトルを冷やしてテントに配置し、飲み物を冷やすことに使うとい

う案が考えられた。問題はこの作業を誰が行うかということだった。執行部に対して、さらに踏み込んで「多くの生徒の協力で行えないか」ということまで考えさせた。そしてこのアイデアを保健委員会と協力して実現させることになった。ペットボトルは全校生徒から集め、準備や片付けは保健委員会が中心に行うことで、多くの生徒関わった。

○運動部の参加度を高める

運動会の際のグラウンド整備、球技大会のルール作成や審判について、各部活動に明確に役割分担をさせた。さらに事前に執行部と各部活動のキャプテンとの打合せを何度も行わせた。生徒同士のやり取りを増やすことで、お互いに「自分たちが体育祭をつくる」という主体的な意識と責任感が生まれた。

（3）全校生徒が主体的に参加し一体感をもつ文化祭

〈概要と問題点〉本校の文化祭は「収穫祭」の性格もあり、収穫された農作物を地域へ販売している。来場者数は毎年 1000 名を超え、農作物の販売を行う農業技術科はもちろん、展示を行う各学科、部活動などそれぞれの活動で忙しく動き回っている。個々は活発に活動しているものの、全体としての一体感があまりないことが例年の反省だった。そこで執行部に対して、文化祭の計画段階から「全校生徒が一体感をもって活動する」ことを課題として取り組ませた。

〈具体的な取り組み〉

○ステンドグラスの全校制作

本校の 2 階渡り廊下には、16 枚の大きな窓ガラスがある。そこにクラス 1 枚ずつ（15 クラスあるので 15 枚）と執行部が作成したステンドグラスを合体させ、全校制作とした。下地部分には黒い色画用紙を使用し、光が透ける模様部分にはペットボトルのラベルを使用した。ラベルは文化祭の前から生徒に呼びかけて収集し、準備の段階から全校生徒が関わられるようにした。また絵柄は各部活動の活動の様子をモチーフにした。本校では一年生のときに全員が部活動に所属し、二・三年生まで継続して活動する生徒が多い。自分たちが普段一生懸命活動している姿を、全校生徒で表現することで一体感が高まった。



○後夜祭の実施

（1）で上述したように、一般公開終了後に在校生のみで後夜祭を実施することになった。内容については執行部でさらに検討した。生徒からは、バンド演奏やダンスの披露など、いわゆる「文化祭らしい」意見が多く出されたが、そのたびに「全校生徒が一体感をもって活動する」という目標を忘れないよう何度もアドバイスをした。結果として、後夜祭は第一部と第二部に分け、第一部は全校生徒参加のクイズ大会、第二部は自由参加で有志生徒によるステージパフォーマンスという形で決まった。

第一部では、あくまで傍観者ではなく参加することにこだわらせ、全校生徒で○×形式でクイズ大会を行った。体育館前方のスクリーンに問題を提示し、生徒は体育館の左

右につくられた○か×のゾーンに移動する。不正解の場合は体育館後方の敗者ゾーンに移動する。そして人数を減らしていき、10名程度が残った段階でステージの上で決勝戦を行った。クイズの問題は、本校の131年にわたる歴史や部活動、教職員に関することなど生徒にとってなじみ深いもので、出題されるたびに歓声があがっていた。

(4) 生徒会便りやホームページなどによる情報発信

〈概要と問題点〉 これまでは、各行事の振り返りや生徒総会で議決された内容の進捗状況などを生徒会便りとして発信していた。しかし、日頃の生徒の活動の様子や、学科ごとの取り組みを紹介することは少なかった。また、執行部が生徒総会や学校行事以外に普段どのような活動をしているのか、生徒たちはあまり認知していない状況であった。

〈具体的な取り組み〉

○生徒の声をとりあげる生徒会便り

国体やインターハイなどの大会が終わるたびに部長にインタビューを行い、その記事掲載させた。また、農業クラブなどの活動の様子も紹介した。同じ学校の生徒の活躍を知ることは、本校生としての自覚と誇りを高めることにつながった。

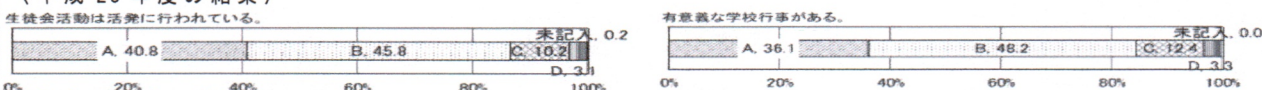
○ホームページを使った素早い情報発信

学校のホームページに「生徒会ブログ」というコーナーをつくり、執行部の活動の様子を短いスパンで発信した。生徒会活動への生徒の関心の高まりにつながった。

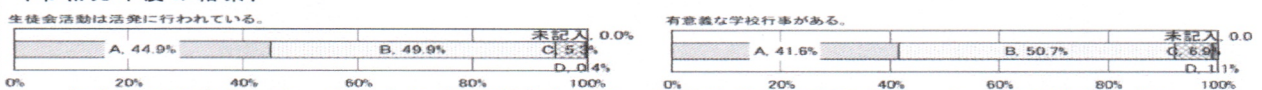
【実践を通して】

学校評価アンケート（生徒対象）の生徒会活動や学校行事に関する項目で、実践を行う前の平成28年度と、3年間実践を行ってきた令和元年度では以下のような変化が見られた。いずれの項目でもAとBの割合が増え、CとDの割合が減った。

〈平成28年度の結果〉



〈令和元年度の結果〉



A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：当てはまらない

また、全校生徒が生徒会活動に肯定的な考えを持つようになると、それを率先していく執行部のやる気も高まっていく。令和元年度には他校の執行部と協力し、大崎市の夏祭りで子供向けのお化け屋敷を催すボランティアに参加した。この活動は第2回吉野作造記念おおさき社会貢献大賞で努力賞を受賞した。さらに同年度の10月に行われた県議選では、本校が宮城県の高校としてはじめて期日前投票の会場となった。執行部が投票立会人などの係りを率先して引き受けるなど、リーダーシップを発揮した。執行部の活躍を知ることで、ますます全校生徒の生徒会活動への関心と参画意識が高まり、それを受けて執行部がさらに活躍をするという、学校全体が活性化するスパイラルが生まれた。